

奥村功教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長・経済学会長 角 田 修 一

奥村功先生は、2002年3月をもって、定年により立命館大学教授の職を退かれます。

奥村先生は、1966年に立命館大学経済学部専任講師として赴任され、それ以来、36年の長きにわたり、立命館大学および経済学部の発展のために尽力してられました。経済学会として、この間の先生のご功績をたたえ、そのお人柄を敬愛し、『立命館経済学』において退任記念論文集を編集・刊行することにいたしました。

奥村先生は、1936年にお生まれになり、1956年大阪外国語大学フランス語学科に入学されました。1958年には京都大学文学部フランス文学科にすすまれ、1961年3月に同学部を卒業されています。その後、京都大学大学院で修士課程から博士課程にすすまれ、1963年10月から1966年1月にかけてフランス政府給費留学生としてパリ大学文学部で学ばれました。

先生は、1966年に本学に赴任後、1969年助教授、1977年教授に就任されています。そして、本学のフランス語教育において一貫して積極的で中心的な役割をはたしてられました。先生の専門分野はフランス文学と演劇ですが、同時に、日本とフランスとのあいだの文化交流についても長年、研究を重ねてられました。近年は、立命館の学祖である西園寺公望のフランス語蔵書やフランス学についての研究を発表されています。また、フランス語およびフランス事情の教育について、多くの教科書等をつうじて貢献してられました。

奥村先生は、フランス語、世界の言語と文化、文学などの科目を担当されるとともに、学内行政においては、経済学部学生主事、(旧)二部教務主任、外国語教育に関わる諸委員会の委員などを歴任され、本学の学部教育および外国語教育全般について、積極的な役割を果たしてられました。教授会その他の会議においても、おだやかに、時には鋭く、見識を披露されるお姿が印象的です。

立命館大学は、先生の長年のご努力・ご貢献に対し、名誉教授の称号をお送りすることになりました。先生は、途中で健康を損なわれた時期もありましたが、いまはお元気で定年をお迎えになります。21世紀にはいり、世界は混迷と流動のなかにあります。この状況を打開し、わたくしたちが希望を語り合えるために、一人ひとりの努力が求められています。奥村先生には、日本とフランスとの文化交流をつうじて、引き続き国際間の相互理解につとめていただけるものと確信しています。今後もあらゆる機会に、わたくしども後身への指導と援助をたまわりますようお願いするとともに、先生のいっそうのご健勝とご活躍を祈念し、論文集刊行にあたっての言葉とさせていただきます。



奥村 功教授
モンマルトル，アベス広場にて
85年3月